

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：市民と共に ミュージアムIPM

事業者名：独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館

住 所：福岡県太宰府市石坂4丁目7番2号

TEL：092-918-2818

FAX：092-918-2821

HPアドレス：<http://www.kyuhaku.com/pr/>



連携事業者名：福岡県立美術館

筑紫野市歴史博物館

太宰府市文化ふれあい館・久留米大学地域文化研究所

NP0法人文化財保存活用支援センター・NP0法人ミュージアムIPMサポートセンター

会 場：福岡県太宰府市石坂4丁目7番2号

九州国立博物館

事業期間：平成21年8月3日～平成22年3月15日

1. 館の使命と本事業の関係

九州国立博物館では、文化財を守り伝え活かす場である博物館が自然や人の健康への配慮を欠くことのないよう留意し、化学薬剤だけに頼らないIPM(総合的有害生物管理)による「自然との共生」を目指した文化財環境の保全をはかっている。日常管理の一部には、ボランティアや地元NP0法人等の「市民」をミュージアムIPM支援者として位置付け、「市民と共に歩む」という館の使命に取り組んでいる。本事業では、地域や市民との連携を見据えたミュージアムIPM支援者育成プログラムを策定することにより館の役割を果たしたい。

2. 企画内容

①事業目的

地域に展開可能なミュージアムIPM支援者育成プログラムを策定し、館の保存管理機能の基盤強化と共に地域のミュージアム支援者層の拡大をはかり、設置形態や規模に応じた対策立案に寄与すること。

②事業概要

1. 人材育成プログラムの策定

現行の九州国立博物館ボランティア活動を評価検討し、プログラム案を策定する。

2. 研修会・ワークショップ・施設見学の実施

文化財の環境保全とIPMの基礎を学び体験実習する研修会とワークショップを開催した。

3. 公開シンポジウムの開催

市民協同型ミュージアムIPMの必要性や重要性を広く社会へ紹介した。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

①ミュージアム IPM 支援者育成プログラムの策定

協力者会議

第1回 9月3日(木) 14:00~18:00

第2回 1月20日(木) 14:00~18:00

ワーキンググループ検討会

第1回 8月4日(火) 18:00~20:00

第2回 9月1日(火) 18:00~20:00

第3回 10月10日(土) 10:00~12:00

第4回 11月7日(土) 18:00~20:00

第5回 11月27日(金) 18:00~20:00

第6回 1月6日(水) 18:00~20:00

②ミュージアム IPM 支援者育成プログラム策定のための研修会等の開催

ガイダンス

9月5日(土)、9月6日(日)、9月8日(火)、9月11日(金)

研修会

第1回 9月12日(土) 10:00~15:30

第2回 9月26日(土) 10:00~15:30

ワークショップ

第1回 10月11日(日)、10月25日(日) 10:00~12:00

第2回 11月8日(日)、11月27日(金) 10:00~12:00

施設見学

筑紫野市歴史博物館 10月25日(日) 14:00~15:00

福岡県立美術館 10月31日(土) 14:00~15:00

太宰府市文化ふれあい館 11月8日(日) 14:00~15:00

九州国立博物館 11月16日(月) 14:00~16:00

③公開シンポジウムの開催

報告会 11月28日(土) 14:00~16:00

講演会 11月29日(日) 10:00~15:30



ワークショップ
「環境保全のための計測」



ワークショップ
「IPM グッズによる取り組み」

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ 621人

内 訳：ガイダンス 50名（参加登録者）

研修会 50名×4回 200名（参加登録者）

ワークショップ 25名×4回 100名（参加登録者）

施設見学

1回目（筑紫野市歴史博物館） 24名（参加登録者）

2回目（福岡県立美術館） 23名（参加登録者）

3回目（太宰府市文化ふれあい館） 21名（参加登録者）

4回目（九州国立博物館） 13名（参加登録者）

公開シンポジウム

11月28日・29日

190名（IPM 活動実施機関、文化財保存教育機関関係者など・一般）

(3) 事業により作成した印刷物等

○チラシ、ポスター、予稿集

- ・平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業
公開シンポジウム「市民と共に ミュージアム IPM」

○DVD

- ・平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業
PART I 公開シンポジウム編
- ・平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業
PART II 研修会・ワークショップ編

○事業報告書

- ・平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業
「市民と共に ミュージアム IPM」報告書

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事



西日本新聞（九州版）平成21年11月25日 朝刊 24面

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

本事業は、九州国立博物館が実施している市民協同型 IPM 活動について、昨今多くの美術館・博物館から問い合わせや相談を受けたことを契機に、平成19～20年度科学研究費による基礎研究を経て計画したものである。

今後の事業も含めて、最終的には設置の目的や規模・形態の異なるミュージアムにおいても、市民の支援者による協力を得て展開可能な IPM 活動を目標にしており、21年度は、そのための支援者育成プログラムの策定および検証をすすめた。

事業の成果

本事業の研修会やワークショップの登録者は、九州国立博物館および地域連携機関のボランティアやNPO 法人活動者他からなるが、毎回大変熱心な参加状況であり、IPM についての地域市民の関心の高さがうかがえた。自然と共生しながら、市民と共に文化財をまもり伝える活動が社会的共感を持つことがあらためて認識され、地域のミュージアムが果たす役割の大きさを実感した。

また、本事業実施が地域に伝わるにつれ、地域の美術館・博物館等文化財関連機関をはじめ全国各地からの問い合わせや参画希望が寄せられた。IPM の導入に苦労している状況があらためてみえてきたことも確かである。

「モノ・ヒト・環境にやさしい」施設運用が目指され、IPM の導入事例も増加してきているとはいえ、まだまだ社会的な認知度は必ずしも高いとはいえない状況の中での、本事業実施の意義と効果を物語るものであろう。

本事業は、いわゆる「マニュアル」を提示する段階ではなく、その形態や内容も含めての支援者育成のプログラム作りのためのモデル研修会等やシンポジウムを開催し、参加登録者の感想や意見を得るという目的であり、上記により概ね達成された。

研修会等への具体的な意見や指摘としては、研修会を短期集中型に実施する方が効果を望めるのではというものが多かった。

今後の課題

本事業が、地域の関係機関のみならず、全国各地から関心を受けたことも、地域市民直接参加の可能性が社会的な要請であることを示している。

資料保管のための IPM 活動についても、ボランティアや NPO 法人等による自己実現や奉仕活動あるいは社会貢献活動の一つとして十分に成り立つ可能性がみえてきたといえよう。

本事業により、全国展開可能な IPM ボランティア育成プログラムモデルの基礎を構築する機会を得たので、今後もさらに地域機関と連携協力しながら充実していきたい。